

公益財団法人 J F E 2 1 世紀財団  
2018 年度 事業計画書

・ 大学研究助成および大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈事業  
( 公益目的事業 1 )

ア 技術研究助成 ( 公募 )

当財団は 1990 年 12 月の設立以降、27 年間にわたり一貫して「21 世紀における創造的発展をめざす鉄鋼産業及び関連産業に資する技術研究への助成」を主要な事業として継続し、リーマンショック及びその後の円高によって財団収入が減少した時期も含めて、毎年 20 件の助成を維持してきた。2013 年度以降は運用環境の好転に恵まれたため、助成件数を 20 件から 25 件に増加した。

2018 年度についても引き続き比較的高い運用収益が見込めることから、2017 年度並みの 25 件の助成を継続する。

(1) 助成金総額 : 50,000 千円 ( 2,000 千円/件 × 25 件 )

(2) 助成対象者 : 日本の大学と公的研究機関に所属する研究者  
国籍不問、直近 3 年の受領者は非対象

(3) 助成対象研究 :

・ 鉄鋼技術研究 : 鉄鋼材料、製造プロセス、鉄鋼副産物を対象とする基礎 / 応用研究。  
( 13 ± 3 件程度 ) 計測・制御・分析・計算科学・数値解析等で鉄鋼を対象とする関連技術や生産技術の研究を含む。

・ 地球環境・地球温暖化防止技術研究 : 地球環境保全と地球温暖化防止を目的とした技術開発を  
( 13 ± 3 件程度 ) 対象とするエンジニアリング ( 工学 ) に関する基礎、応用技術の研究  
合計 ( 原則 ) 25 件

(4) 公募期間 : 2018 年 4 月 23 日 ( 月 ) ~ 6 月 22 日 ( 金 ) ( 約 2 ヶ月間 )

(5) 審査・選考方法 : 理事会にて選任した技術研究助成審査委員 13 名の合議により、助成対象候補者 25 名を選考し、その審査報告に基づいて理事長が決定し、10 月初旬までに公表する。

(6) 助成金交付日 : 2018 年 12 月中旬

(7) 研究期間 : 2019 年 1 月開始。原則 1 年間 ( 1 年間に限り延長可 )

(8) 研究報告 : 1 年間または 2 年間の研究期間終了後、財団に研究報告書を提出する。

これを 2019 年度または 2020 年度の「技術研究報告書」に掲載し、研究成果を公開する。

【2018 年度の課題】 鉄鋼技術研究の応募者数が地球環境・地球温暖化防止技術研究の応募者数に比較して低迷していることから、2017 年度に引き続き、大学への働きかけや広報活動の強化に努める。

## イ アジア歴史研究助成（公募）

2005 年度から開始したアジア歴史研究助成は、「21 世紀アジアに共存共栄するための日本の産業と文化の Vision 構築に資するアジア歴史研究への助成」としてアジア研究者の間で定着し、2018 年度で 14 年目となる。2012 年度までは助成件数を 7 件としてきたが、2013 年度から技術研究助成同様、助成件数を 7 件から 10 件に増加した。

2018 年度についても、2017 年度と同様 10 件の助成を継続する。

- (1) 助成金総額：15,000 千円（1,500 千円/件×10 件）
- (2) 助成対象者：日本の大学と公的研究機関に所属する研究者  
国籍不問、直近 3 年の受領者は非対象
- (3) 助成対象研究：アジアの歴史を対象とし、21 世紀アジアと共存・共栄するための、日本の産業と文化の Vision 構築に資する研究
- (4) 公募期間：2018 年 4 月 23 日(月)～6 月 22 日(金)（約 2 ヶ月間）
- (5) 審査・選考方法：理事会にて選任したアジア歴史研究助成審査委員 4 名の合議により、助成対象候補者 10 名を選考し、その審査報告に基づいて理事長が決定し、10 月初旬までに公表する。
- (6) 助成金交付日：2018 年 12 月中旬
- (7) 研究期間：2019 年 1 月開始。原則 1 年間（1 年間に限り延長可）
- (8) 研究報告：1 年間または 2 年間の研究期間終了後、財団に研究報告書を提出する。  
これを 2019 年度または 2020 年度の「アジア歴史研究報告書」に掲載し、研究成果を公開する。

【2018 年度の課題】 2017 年度は、助成研究者の研究成果を一般に公開する場として、「アジア歴史シンポジウム」を国際基督教大学との共催で 12 月に開催し、約 60 名の研究者・市民の参加を得て好評であった。  
2018 年度も、中央大学との共催で、第 2 回「アジア歴史シンポジウム」を秋頃に開催することとしたい。

## ウ 大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈

### (1) 「鉄鋼工学（プロセス編）（材料編）」（改訂版）の完成

「鉄鋼工学（プロセス編）（材料編）」については、2017年度にJFEスチール(株)スチール研究所殿において精力的に改訂・執筆を進めて頂いた結果、原稿・図版はほぼ完成している。他方、初版部分・改訂部分を通じて引用文献が多数にのぼり、著作権許諾に時間を要しているため、印刷・製本作業は2018年度にずれ込み、上期に完成する予定である。

完成した大学教材については、全国の国公立大学、高等専門学校等材料系学科を始め関係諸機関に寄贈する他、一般の希望者にも寄贈する。

### (2) 鉄鋼工学の大学用映像教材の制作

材料系の大学教授から、学生に鉄鋼製造プロセスを身近に教えるツールとして映像教材が必要であるが40年前の古いものしかないとの声があり、実情を調べた所、鉄鋼工学の授業に使える映像教材は日本全体で永らく制作されていないことが判明した。

当財団は「鉄鋼をはじめとする金属材料工学に関連する大学教材」の出版を公益目的事業としていることから、2018年度の出版事業として、大学のニーズに応えられるような鉄鋼工学の大学用映像教材の制作に取り組みたい。

### (3) 鉄鋼関係の図版、イラスト

財団のホームページで公開している鉄鋼関係の図版、イラストは、鉄鋼研究者の間で報告書作成等に自由に活用でき好評であるが、作成時点から時間が経ち陳腐化しているものも見受けられるため、最新の技術を反映した図版、イラストに順次更新して行く。

### (4) 2019年度以降に制作する刊行物の企画・検討

上記を進めつつ、次年度以降に具体化する新たな刊行物の企画・検討を並行して進める。

・文化振興事業（公益目的事業２）

ア 鉄鋼に縁のある地域への貢献

音楽、美術、伝統継承（囲碁・将棋・芸能）町おこし、コミュニティ活動、文化財保存の活動など地域社会の文化活動に協賛金を授与する。

【2018年度の地域別協賛事業】

地域	協賛事業	備考
千葉	趙治勲杯囲碁大会	20周年記念大会。開催時期を5月に変更し、2017年協賛金も充当して企画を拡充。
千葉	千葉県少年少女囲碁連盟	
千葉	千葉市音楽協会（千葉市民音楽祭他）	
千葉	千葉交響楽団	新規（2017年度はその他枠で期中追加協賛）
川崎	MUZA ランチ&ナイトコンサート	
川崎	ふれあい祭り	
横浜	トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	
半田	はんだふれあい産業まつり	
三重	三重県高等学校ロボット競技大会	
倉敷	倉敷音楽祭	
倉敷	白壁倉敷将棋フェスタ	
福山	福山ばら祭	市の規模拡大方針の趣旨に協力し増額
福山	芸能大全～まつりの世界～	
中国	嘉興市（浙江省）浪漫桜祭り	
その他	上記の趣旨に適合する公益的活動	理事長の承認により執行
合計		

イ 海外子女文芸作品コンクールへの協賛と文集の寄贈

- (1) 公益財団法人海外子女教育振興財団が主催する「海外子女文芸作品コンクール」に協賛し、審査委員を派遣するとともに、「JFE 21世紀財団賞」を授与する。
- (2) 「海外子女文芸作品コンクール」の優秀作品を掲載した文集「地球に学ぶ」の作成費を負担し、鉄鋼に縁のある地域の小中学校、図書館等に寄贈する。（約2,100冊）  
（寄贈先小中学校、図書館等の所在市町村）  
千葉、川崎、半田、武豊、津、倉敷・近郊3市町村、笠岡、福山

以 上